

## 連携先世界遺産： 清水寺

### 境内の見どころを巡るバリアフリー動線の提案

既存の整備済みのバリアフリー動線を改善すべく、様々な視点から動線や見どころを見直し、全く新しい独自の視点で改善案を提案する。

#### ■ 受講生

鷲尾 龍之介（立命館大学・理工学部・3回生）、北田 昂大（立命館大学・理工学部・1回生）、若山 優馬（立命館大学・理工学部・4回生）、古里 優奈（立命館大学・経営学部・3回生）、海野 晃平（立命館大学・経営学部・2回生）、岸本 優希（立命館大学・国際関係学部・1回生）、田中 友理奈（立命館大学・国際関係学部・1回生）、伊藤 駿介（立命館大学・文学部・4回生）、金子松 美香（立命館大学・文学部・3回生）、久保田 真琴（立命館大学・文学部・1回生）、三田 華奈子（京都女子大学・文学部・1回生）、野畑 万葉（同志社大学・商学部・4回生）、井上 水輝（同志社女子大学・表象文化学部・3回生）、村上 耀進（龍谷大学・文学部・3回生）、中島 英里（龍谷大学・文学部・3回生）、東方 駿也（龍谷大学・文学部・3回生）、岡澤 友香（龍谷大学・経営学部・2回生）

#### ■ 担当教員

宗本晋作、青柳憲昌、加戸啓太（立命館大学・理工学部・准教授、講師、助教）

### 活動目的・概要

清水寺の既存のバリアフリー動線について、より楽しめる見どころを、より快適に巡れるよう、新しい視点を取り入れながら見直し、映像形式で改善案を提示することを目的としている。

活動にあたって、学生を4グループに分け、車椅子（電動・手押し）による現地でのフィールドワークを実施し、見どころの理解を深め、既存のバリアフリー動線の問題点を発見した。

これらをもとに検討と議論を重ね、4グループはそれぞれ、①動線の勾配や介助者も一緒に楽しむという視点から、②時間距離と人混みを避ける視点から、③車椅子目線で楽しめる見どころ巡りの視点から、④車椅子だからこそより詳しい位置と情報により極上の清水寺を楽しむための情報を与える視点から、①～④のより楽しむための見どころ、ルートの改善を考案している。動画等の成果物は、清水寺のホームページからのリンク等での紹介、公開を行う予定である。



#### ◆ 主な活動

- |   |   |
|---|---|
| 2015. 5. 30 全体オリエンテーション                   | 2015. 10. 4 清水寺での草案批評Ⅱ、現地調査<br>ナレーショントレーニング |
| 2015. 6. 21 清水寺での森清顕先生の講話<br>自己PR、グループ分け、 | 2015. 10. 17 草案批評Ⅲ                          |
| 2015. 6. 27 青柳先生による講話                     | 2015. 10. 24 中間発表                           |
| 2015. 7. 19 清水寺での車椅子を使用しながら<br>現地調査       | —以下予定—                                      |
| 2015. 8. 23 清水寺での草案批評Ⅰ<br>車椅子を使用しながら現地調査  | 2015. 11. 8 or 15 草案批評Ⅳ（成果品確認）              |
|   | 2015. 11. 29 成果発表準備@清水寺（森清顕先生）              |
|   | 2015. 12. 5 成果発表                            |

## 活動の成果

清水寺での車椅子を用いたフィールドワークを通じ、各グループの発見した問題点、解決のための着想をもとに、新たな参拝ルートや楽しみかたを提案するための映像を作成しました。

## ゆっくり楽しむ清水寺

グループ①では、「動線の勾配や介助者も一緒に楽しむという視点」から提案を行いました。勾配のある箇所が多い既存のルートにおける介助者の負担を考え、提案するルートには三箇所の休憩スポットを設定しています。それぞれの休憩スポットには、単なる休みのスペースではなく、そこからの景色も楽しめるような工夫も盛り込まれています。下り坂を降りる際の車椅子と介助者の動作から、見返りしてみる景色を提案するなど、フィールドワークでの体験が生きた提案となっています。



## さくっと廻る清水寺

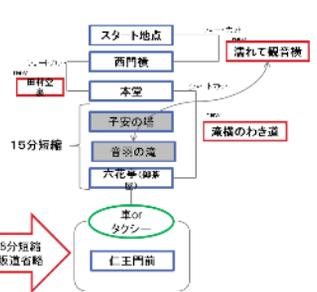
車椅子で清水寺に参拝する方にとって、参拝に掛かる所要時間は特に重要な情報です。グループ②は、「時間距離と人混みを避ける視点」から各スポット間の動線の混み具合を調査し、加えてそれらを廻る際の車椅子での所要時間を測り、この情報をもとに新しいルートを提案しています。お勧め例として示されているさくっとルートでは、既存のルートと比較して全体の所要時間を30分ほど短縮しつつも、見どころはしっかり楽しむ、そんなルートが提案できています。

### 時間距離の比較

通常のルート



時間距離短縮ルート



## 車椅子での穴場絶景スポット

グループ③は「車椅子目線で楽しめる見どころ巡り」の視点からの提案です。車椅子の座面の高さは標準で430mm、視線の高さはおおよそ1,100mmとなり、この視点の位置を考慮した絶景スポットをピンポイントで紹介しています。作成した動画では、このポイントをスムーズに廻るためのルート取りも丁寧に紹介しており、初めて清水寺に参拝する車椅子の方にとって非常に有益な情報となると思われます。



## 清水寺の極み ~優雅に巡り、望み、知る~

「車椅子だからこそより詳しい位置と情報による極上の清水寺」という視点から、グループ④は、車椅子ならではの視点から清水寺を堪能するためのルートを提案しています。舞台（本堂）の檜皮葺屋根の優雅な曲線や大迫力の懸造りをはじめ、石仏像群、三重塔の屋根の南東隅のみにある竜の隅瓦など、見どころを楽しむための位置とその説明を動画に取り込んでいます。



## 活動を振り返って

- ・健常者でなく、車いすの人の視点に立って物事を見たり考えたりすることが新鮮だった。
- ・実際に自分が車椅子でルートを巡り、人混みや急な坂などへの恐怖心を感じることができた。
- ・車椅子の方にとって不便な場所や快適な場所等、一般の方には知ることのできない体験を得た。
- ・清水寺では、体の不自由な車椅子に乗っている方にもルート案内ができるようになったと思う。
- ・普段観光では発見できないことがたくさんあり、知識量が増え、清水寺の魅力を再認識した。
- ・車いすだからこそそのメリットをみつけること、またどのような動画をつくるかなどのコンセプトを決めること、どのように動画を撮っていくかなどに苦労した。
- ・自分の苦手な構想するスキルや計画を立て行動するスキルが足りないと感じ、順序立てて取り組んだ。
- ・いつもの学校の授業とは異なるアウトプットの授業で自分の苦手な分野だったので大変だった。
- ・大学がそれぞれ違う、この授業に参加するまで全く知らない人同士の集まりだったが、みな主体的に動き、一人の子に作業が集中しそうになると、お互い負担を分担するなど、とても良い雰囲気で作業を進めていくことができた。
- ・紹介する場所をうまく絞ることができず何を紹介したいのかハッキリしない状態になることに苦戦したが、自分たちの特化すべきところにアドバイスがあった。
- ・この授業を経て得たことは、何かを紹介するときにはたくさんの方の目を惹くように紹介するより、おかしな一つに絞って一点集中で紹介したほうが人に伝わりやすい、ということだった。
- ・おわりに、この授業はとても楽しかったです！本気で何かに取り組めてよかったです。

## 担当教員からのコメント

この授業では、学生たちのモチベーションがとても高かった。バリアフリー動線、なかでも車椅子での参拝者というネガティブになりがちな題材を、各グループそれぞれ、新しい魅力やより楽しむことに向けた構想を組み立て、人に伝えようとする高い意欲を評価したい。学生たちの授業時間後や時間外の長時間にわたる積極的な現地調査や議論、動画の創作活動により、期待以上の成果品ができた。学生たちの新鮮なアイデアを、共にブラッシュアップしていく過程で、教員も多くを学ぶことができた。

このように実り多い授業となった背景として、森清顕氏をはじめとする清水寺の大きなサポートがあったことも特筆すべきであり、同寺関係者の皆様には深く感謝を申し上げたい。

## 活動資料

## 2015.6.21 清水寺：森清顕先生による講話、境内案内



森先生より、清水寺の1200年以上に渡る伝統と文化を重んじる中での、バリアフリー化も含めた数々の変革への挑戦についてお話しをいただきました。その後、境内を見学する中、清水寺に現存する文化財について、また、バリアフリー化を行ったポイントやその考えについて解説いただきました。

## 2015.7.19 清水寺：車椅子を用いたフィールドワーク



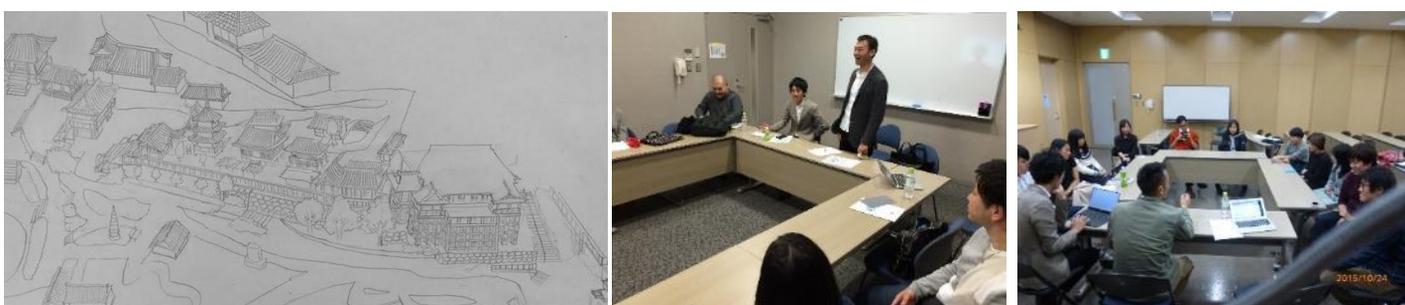
電動車椅子、手押し車椅子をつかって、境内でのフィールドワークを行いました。実際に車椅子にのって境内を参拝してみると、人混みや坂の勾配といった問題が退官できます。フィールドワークの後は、グループ毎に調査結果をまとめ、新たな提案に向けたディスカッションも行いました。

## 2015.10.4 清水寺：動画ストーリー・構成の草案批評



草案の発表とその講評を通じ案が具体化していくなかで、「車椅子だと〇〇ができない」から「車椅子ならではの楽しみ」や「より楽しむには」といった視点が浮き出てきます。講評後は境内の追加調査を行い、アイデアを整理していきます。

## 中間発表会后、成果発表に向けて



中間発表での講評をもとに、成果発表に向け、動画の編集や各提案の下絵となる新たなマップの作成に取り組んでいます。